

# 第4回 定例会

## 総務文教委員会 主な審査内容

●大竹市火災予防条例の  
一部改正について

**Q** 蓄電池設備のアンペアアワー・セルからキロワット時への変更理由について問う。

**A** 蓄電池設備の潜在的な火災リスクは、保有する電気エネルギーの大きさ、蓄電池容量によることが大きいと一般的に考えられており、このたび規制対象の指定に係る単位がアンペアアワー・セルから蓄電池容量を表すキロワット時に改められた。

従来の対象火気省令では、鉛蓄電池設備の安全基準を想定しており、その容量と電槽数の積が4800アンペアアワー・セル以上のもをを対象としていたが、現在は、鉛蓄電池のほかに、ニッケル水素、リチウムイオンなどの蓄電池があり、それぞれの電圧が異なることから、同じ4800アンペアアワー・セルの蓄電池であっても、電圧を基に換算すると蓄電池容量に差が生じていた。

このことを解消するため、蓄電池容量を表すキロワット時が規制対象の指定に係る単位となった。

●令和5年度大竹市一般会計  
補正予算(第3号)について

**Q** スポーツ振興事業のランニングイベントの件費および、ランニングイベントを行う会場近くの住民への周知や、説明について問う。

**A** 今回は、晴海臨海公園内で開催するイベントとしており、警備員の配置は想定していない。

当日、車での来訪者や下瀬美術館に来館される方には、運営スタッフから誘導員を配置する予定である。

実際には主に実行委員の構成団体と地区体育委員に協力をお願いし、当日のボランティアスタッフへの飲食や謝品程度の提供はする予定である。

また、周辺住民には、イベント開催について、ご理解・ご協力をお願いいただけるように今後説明を行いたいと考えている。



**Q** 晴海臨海公園整備事業の説明で、歩行者の安全等を守るためとあったが具体的な工事内容について問う。

**A** 現在の晴海臨海公園内の西側には南北に幅員5メートルのアスファルト舗装の幹線園路があるが、センターラインや外側線などがなく、車道の両側にも構造物は設置していない。

工事の計画では、幅員を6.5メートルに拡幅し、センターライン外側線及び車道の両側に、歩道と車道を区切る歩車道境界ブロックを設置する予定である。

また、整備後は200メートル以上の直線車道となるため、要所に速度抑制のための注意看板を設置する計画である。

車の運転者に減速を促す道路の一部を隆起させるハンプという構造物については、西側の住宅地と幹線園路が近接しており、音などの問題もあるため、現在は計画していない。

**Q** 放課後児童クラブ運営に要する経費が1億9262万円で前回より増額した理由について、また、現在の利用者の要望等をどのように確認しているのか問う。

**A** 主に人件費や物価の高騰が増額の理由である。

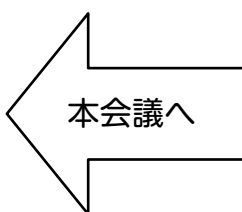
利用者である保護者や児童クラブで働いている方の要望については、事業者のエリアリーダーやエリアマネージャーを窓口として、市と連携を密にとり、相談等を受けている。

また、保護者から毎年アンケートをとっており、満足度や意見の収集などに努めている。



採決の結果、すべての議案が

原案のとおり可決



本会議での採決の結果

原案のとおり可決

第4回定例会は、令和5年9月6日～9月27日の22日間に行われました。  
 詳細については、令和5年12月ごろに本会議録が製本されますので、市ホームページ、  
 市情報公開コーナー、図書館等をご覧ください。市ホームページから録画中継もご覧いただけます。

## 生活環境委員会 主な審査内容

●令和5年度大竹市  
 公共下水道事業会計  
 補正予算(第2号)について

Q 玖波雨水排水ポンプ場事業計画変更業務について経緯と現状を問う。

A 広島県が施工する県道大竹湯来道路改良事業に伴って、道路計画区域内となる玖波雨水排水ポンプ場の移設が必要になり、移設についての検討、また事業計画を変更するための業務を設計コンサルに委託して業務を行っている。

この度、広島県より道路改良計画に伴う関係機関との協議に時間を要する見込みとなり、雨水排水ポンプ場の移設に係る検討業務を一旦中断してほしいという協議があり、業務を一旦中止した。

当初、委託費の支払は業務完了予定の令和6年度としていたが業務委託費を精算し、支払いを行うために今回補正予算を計上するものである。

## ●工事請負契約の締結について

Q 大竹駅西口の駅前広場の工事に関し、スケジュール通り進んでいるのか問う。

A 大竹駅周辺整備事業は西口の公衆トイレを除き、令和6年度末に完了予定である。



大竹駅

現在、JR西日本が駅舎の解体、ホーム内の屋根の復旧工事を行っており、これに必要な作業ヤードを旧駅舎付近に確保している。

これが終了次第、今回の工事に着手する計画で、JR西日本と協議調整している状況である。

今後、もしもスケジュールに変更が生じるということになれば、議会にも報告・説明する。

## ●令和4年度大竹市公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

Q 令和2年に策定された大竹市水道事業経営戦略で定められた管路更新率の目標を1度も達成できていないが打開策について問う。

A 大竹市水道事業経営戦略において、管路更新率1%を目標としているが、達成できていない。原因は、管路更新工事に従事する技術職員の不足と近年の物価上昇による材料費の高騰により、事業数に比べて更新率が伸びていないことである。

技術職員を2名増加する目標を掲げているが、実情は減っており、現在は1名の職員が他の水道事業に関わる工事などと並行して管路更新工事を担当しており、令和6年度も技術職員の新規募集を行う。

Q 使用水量が増えれば単価が上がる現在の逓増型の水道料金体系について、上下水道局の考えを問う。

A 本市の一般用の超過料金単価

はひと月あたり10立方メートルまでが38.5円、10立方メートルを超えた場合は162.8円と2段階の設定になっている。

これは昨年度、基本水量を下げた際に、逆転現象が起きないように調整用の単価として設けたもので、逓増ではないと考えている。

仮に、一定水量以上の超過料金単価を下げる料金体系とし、使用水量が伸びなかった場合には、給水収益が下がり、使用量の少ない利用者へ負担をかけることになりかねない。

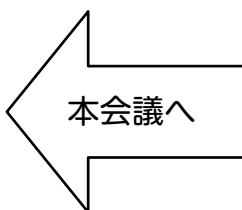
### 【賛成討論】

法に基づいてルールが決められていることなので賛成する。



採決の結果、すべての議案が

原案のとおり可決



本会議での採決の結果

原案のとおり可決